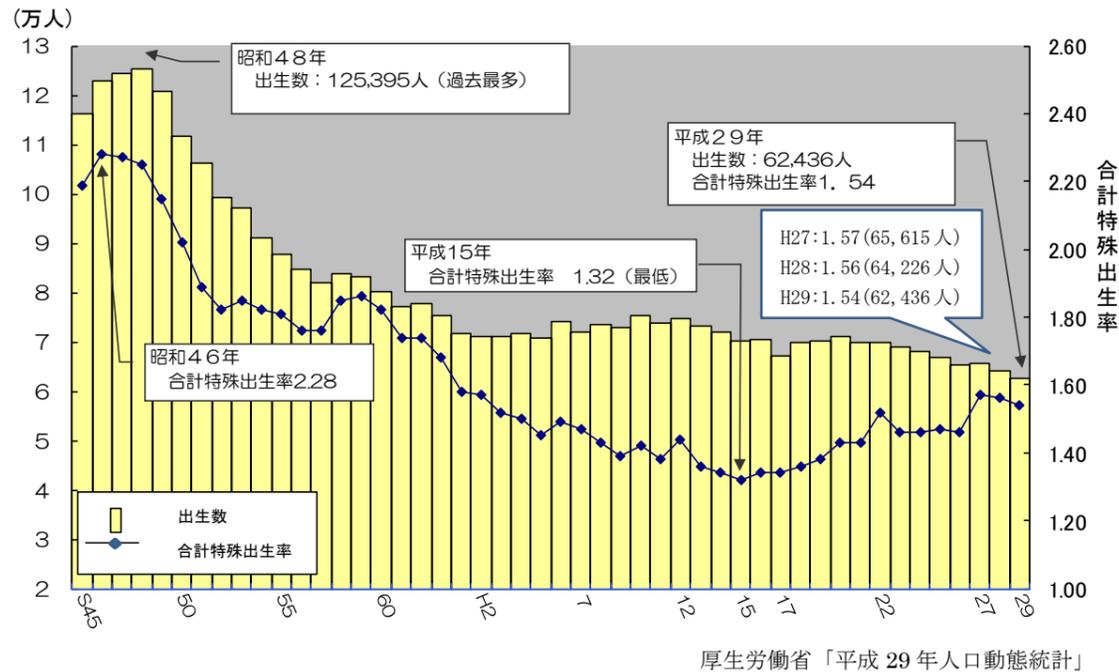


1 少子化

(出生数・合計特殊出生率)

本県の出生数について、平成 29 年は 62,436 人である。また、29 年の合計特殊出生率は 1.54(全国 1.43)で、安定的に人口を維持できるといわれている 2.07 を大きく下回っており、依然として少子化傾向が続いている。

※合計特殊出生率…一人の女性が生涯に生む子どもの数

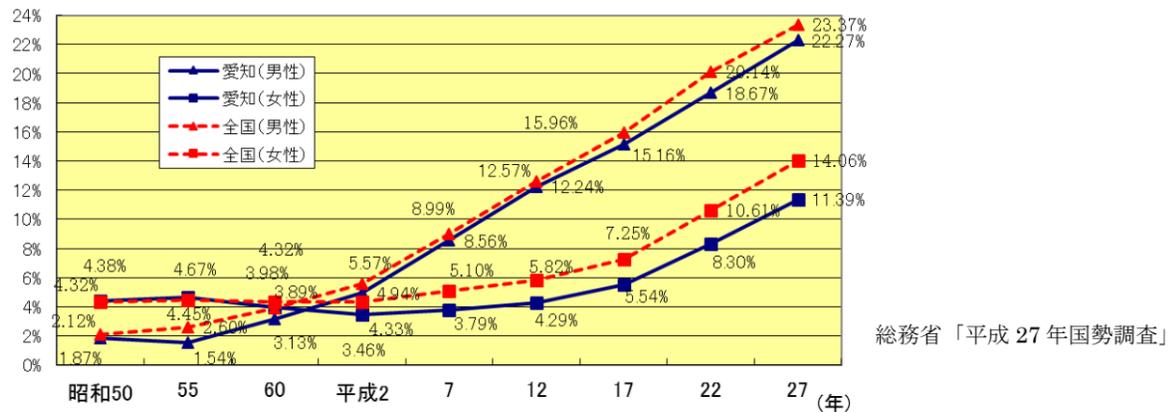


2 未婚化・晩婚化・晩産化の進行

(未婚化)

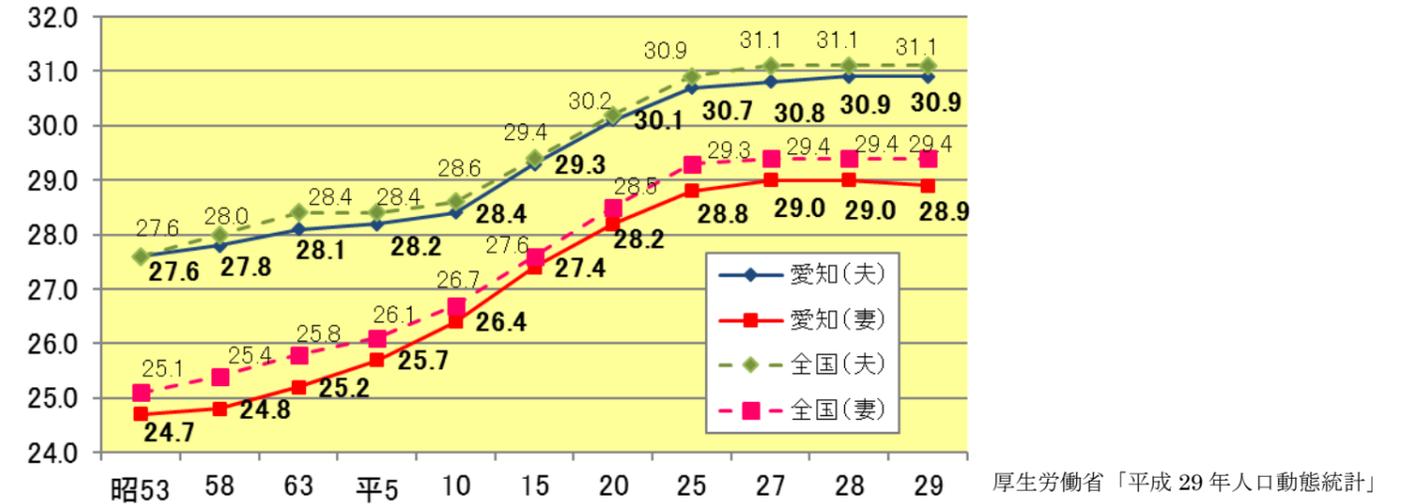
生涯未婚率は男性が 22.27%、女性が 11.39%となっており、昭和 50 年と比べると男性は約 12 倍と大幅に上昇し、女性も平成 12 年以降急進し約 2.6 倍になっている。

※生涯未婚率とは 45 歳～49 歳未婚率と 50 歳～54 歳未婚率の平均値で、50 歳時の未婚率を示す



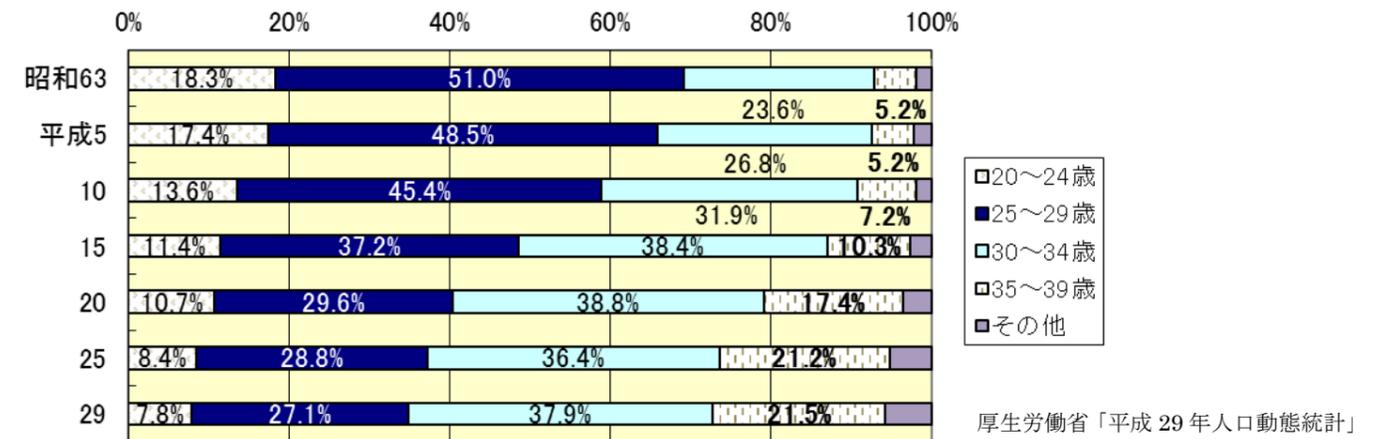
(晩婚化)

平均初婚年齢も長期的な上昇傾向にあり、平成 29 年には夫 30.9 歳、妻 28.9 歳である。昭和 53 年と比較し、夫は 3.3 歳、妻は 4.2 歳高く、全国とほぼ同様の傾向がある。



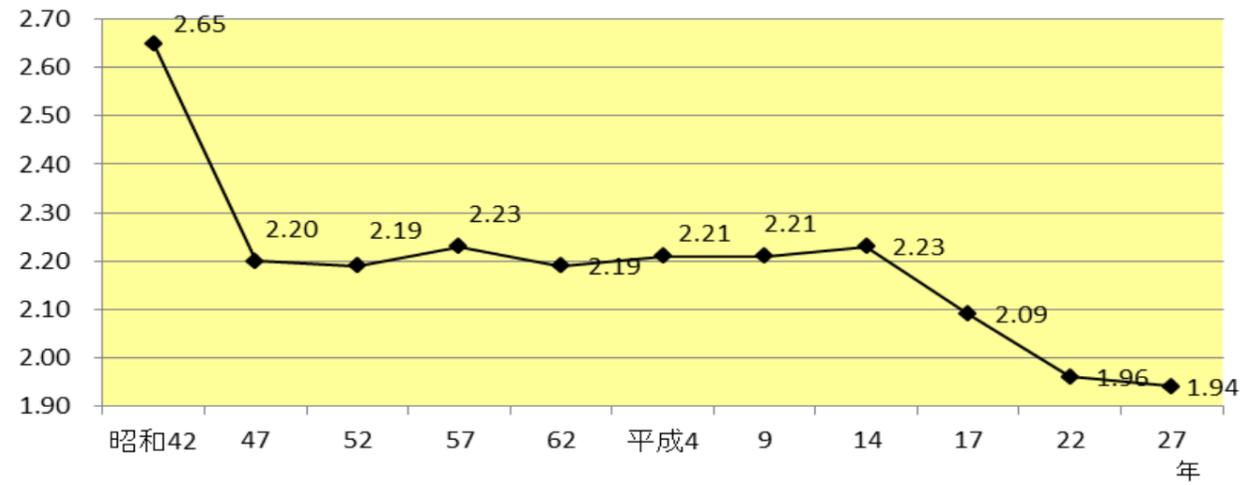
(晩産化)

出生児の母の年齢階級別の割合は、昭和 63 年は 25 歳から 29 歳が約 5 割で最も多く、20 歳代で約 7 割を占めていたが、平成 29 年では 4 割を切るほどに減少。



3 夫婦の子ども数の減少

夫婦の完結出生児数は、昭和 47 年以降 30 年間にわたって 2.2 人前後で安定していたが、平成 27 年には 1.94 人となった（国立社会保障・人口問題研究所「平成 27 年出生動向調査」）。
※完結出生児数とは、結婚持続期間 15 年から 19 年夫婦の平均出生子ども数のこと。



国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」